

「回復と再建」

～あなたが地上で解くなら！！～

イザヤ58：9～14

■ あなたはどんな口癖がありますか？

もめごとが起こった時にあなたが発する言葉であなたはそれにコントロールされてしまうのです。なぜそのようなことが起こるかという、小脳という組織はその言葉と言葉の間の言葉しかとらえません。「私はあの人嫌なんだよなあ」というと「あの人嫌だ」という言葉だけが残るのです。そうすると意識は耳も口も「あの方は嫌な人だ」と認識してしまうのです。脳はコンピューターのように電気信号を早く送ることができないので、目に入った瞬間に予見して物事を判断しています。つまり私たちの口癖で自分が意識する前から自律神経があなたに先立ちあなたの意識を決定づけられているというわけです。また、私たちは心のどこかに絶えず「自分が」という思いが潜んでいます。ですからその口癖は基本的に自分を優先させたり守るためのものが多いのです。さらに、口癖というのは思い返してみると結構否定的なのです。言葉というのはこれだけ身体に影響を与えます。ですから私たちは是非自分の口癖をコントロールしたいのです。

■ 回復と再建 ～あなたが地上で説くなら！！ イザヤ58：9-14

何かを進めようとするときにどうしても壊れてしまうもの（疎かになってしまうこと）があるのです。そういう時に、私たちはその疎かになって壊れたものを、もし、聖書の土台に乗っ取って神様と一緒に回復していくと、そのあなたの愚かだった、最善を選べなかった弱さですら神様は究極的に回復して立て直すとき実と共にあなた自身を究極的に回復させるのが聖書のストーリーなのです。私たちには欠落があるのです。だけど信仰に立って頑張ろうと進もうとするときに進んでいるのだけれど全体が見えなくなってしまう時に何かを壊してしまう事があるのです。本当はこうあるべきだったのにこれを進めるがためにこれが疎かになって気づいたらそれが壊れていた。私たちの人生で失われたものも、もし、この回復に心が向いているのならそれは再建されるのです。来年は進める中で壊れたものをもう一度、回復・再建したいのです。その再建するために今日は備えておきたいことがあるのです。再建するための方法の一つです。「あなたの言葉を変える。」ということなのです。先ほどからずっと口癖の話をしてきました。そしてこの一年間の自分の行動を変えることは大変なことでしょう。もう何十年もやってきたのです。癖にはいろんな癖があります。でもその癖を変えるのは非常に難しいことなのです。しかし、そこで大事なのが否定的な口癖を言わないことなのです。ここで否定的な口癖をいうとぼやけて終わってしまうのです。ところがここで私たちは帰るのです。回復するために口癖を変えなければならないということなのです。あなたが地上で解くなら天でも解かれ地上で繋ぐならば繋がれるというのが法則です。ですからあなたがどのように今心の中でこの一年間のマイナスを終わらせるかが大事なのです。ここにいる私たちは世の中の人が一番選ばない決断を今日しなければいけないのです。知らないということを辞めるのです。分からないで終わらせないようにするのです。

分からないのは考えないから分からないままですよ。分からないことはどうすればよいのでしょうか。考えれば良いのです。考えるために決断がいるのです。嫌なものが目の前にあるのに考えることができないのですから、嫌なものが許せる決断をしなければならぬし、回復する決断をしなければなりません。

■ 1. 回復の始まりとは目線を変えること

「嫌だなあ」と思うその人から目線を変えてあげることなのです。それを一緒にやっていくのが教会です。その人を目線を変えて良い人と見ることです。その問題を目線を変えて愛することなのです。皆さんが目線を変えないと誰が変えてくれるのでしょうか。あなたの見る目であなたも見られるのです。では、目線を変えた人が誰だったのでしょうか。それがイエスキリストだったのです。彼は目線を変えたのです。人を裁く目線から人を赦す目線に変えたのです。赦されたから多く愛したのです。これが聖書の基本なのです。私たちがやることは赦すことです。それが人を変えるのです。私たちの生き方を変えるのはこの方法でしかないので。

■ 2. 歩き方を変える

目線が変わったら後は踏み出してみましょ。ちょっと嫌な人がいたら遠回りしないでその人の所に行ってみましょ。歩き方を去年と今年と来年は変えたいのです。一年を振り返ってみて悪かったものを来年は変えたいと思うのです。側面を歩いてきたのなら真ん中（王道）を歩いていきましょう。

■ 3. 神様と共に

この聖書の箇所なぜ安息日のことを伝えているのか。神様と共に歩むということのを忘れてはならないと思うのです。人はコントロールを失うとただの暴れる象なのです。私たちにとって大事なことはいつまでたっても学ぶということと教えてもらうということなのです。主と共にいないとあなたを教えてくれる人は本当の意味でいないのです。主を恐れることは知識の始めである。という言葉があります。私たちが恐れるものを持たないと駄目なのです。

最後に

もし来年、あなたがあなたの任されたものを豊かにし、あなたが任されたものを祝福に導きたいなら、目線を変えて、歩き方を変えて、そして、神様と共に歩むということのを大事にしてほしいのです。

(要約者:澤口 建樹)

(12月31日)